

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600070		
法人名	社会福祉法人ひまわり会		
事業所名	永寿園グループホームひむかてらす	ユニット名	2ユニット
所在地	宮崎県日向市大字富高6957番地1		
自己評価作成日	平成29年6月14日	評価結果市町村受理日	平成29年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon?true&JigyosyoCd=4590600070-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の前には公園があり、桜、若葉、あじさい、彼岸花、紅葉、水仙と四季折々に花が咲き、季節を感じることができる。また、公園に時々、小学生、保育園児、地区の方々が訪れるので、交流することもあった。地区の行事にも積極的に参加している。昨年は地区の盆踊りが公園で行なわれ、全員参加することができた。一緒に踊ったりして地区の方々より声をかけられ、楽しいひとときであった。また、いきいきサロンには毎回3名ほどのご利用者が参加し、1回であったが場所を提供し、地区の皆様がたくさん参加し、一緒に七夕の飾りを作り、盛り上がりがあった。昨年延岡の植物園や牧水公園などに外出した。ご利用者の誕生日はその日にお祝いしている。100歳になられたご利用者は、県や市からお祝いに來られた。ご本人様より、周りのご利用者が大変喜ばれていた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部高台に位置し、近くには小学校や公園があり、自然豊かな環境が自慢のホームである。利用者、職員共に地域の一員として、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。施設長、管理者は、職員が働きやすい環境整備にも力を入れており、職員の気付きや意見、要望等は出来るだけ受け止め、全員で話し合い改善へと取り組んでいる。調理担当、掃除担当の専門のパート職員の導入で、利用者とうき合うゆとりの時間が出来、待つ介護の実践につながっている。運営推進会議の機能が構築されていて、さまざまな情報の発信源としてホームと地域との架け橋の役割も担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの介護方針を目につくところに貼って、研修前は唱和している。方針にそってご利用者に寄りそい希望や要望を叶えるいように努力している。	法人と共有する理念を掲げていたが、5年前の開業当初に立ち戻り、ホーム独自の理念として職員全員で共有しケアの指針としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。ご利用者は毎回のいきいきサロンに参加している。また、高齢者クラブの方と一緒に週2回ほどであるが、小学生の通学の見送りに参加して元気をいただいている。	自治会に加入しており、地域の情報は伝わっている。サロンの参加や小学生の登校時の立ち番を通して地域住民と交流している。七夕作りや盆踊りなどホームの行事にも地域の方が多く参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンにご利用者が参加されることで、ちょっとまえのことは忘れていても、お元気に参加され、いろいろなことが出来る様子を見て、何でもできるのですねと安心されていた。交流を通して認知症の理解を深めていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。行事や外出時の様子をスライドにして毎回みてもらい、わかりやすいなどの意見をいただいた。また、地震、津波の災害についてはいろいろな意見をいただいた。	毎回委員の参加が多く、ホームの現状報告や課題について意見交換を行っている。問題点に対して委員からも改善策が提案され、職員会等で検討しケアに生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日向市高齢者あんしん課の担当者に運営推進会議の一員として参加してもらい、相談しながら情報を得ている。昨年は福祉課の職員に、ご利用者のサービス担当者会議に出席してもらい様子を伝えることができた。	日頃からホームの実情を伝えたり、問題等相談している。内容によっては担当者を通して他の部署に相談することもあり、行政との協力関係は確立されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については毎年研修を行なっている。身体拘束のマニュアルを研修するなかで、改めて身体拘束の弊害について学んだ。	拘束の弊害については研修会やミーティングで正しく理解することに努めている。利用者の困難行動についても原因を理解することで、抑制のない支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても毎年研修を行なっている。言葉遣いについては職員同士気をつけている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修は永寿園全体で行なっている。成年後見制度についてもご家族に情報提供していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約の重要事項説明書と重度化に伴っての説明を行なっている。今年度は介護処遇改善加算が変更になったので、具体的にどの位の変更があるのかを説明することで納得されていた。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族に意見を出してもらおうようにしている。しかし、言いにくいこともあるので、面会時に要望や意見をお聞きするようにしている。昨年アンケートの中で職員の顔と名前がわからないという意見があり、今作成中である。	来訪時や毎月のホーム便りで個別に状況報告を行い、意見や要望が出しやすいようにしている。より多くの意見を出してもらえる工夫として、アンケート調査を行ったところ、具体的な要望等があり、早速改善に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、園内研修時や職員との面談を行なう中で、希望要望を聞いて、上司に意見をあげている。働きやすい、生きがいの持てる職場作りを心がけている。	管理者は職員の心身の健康がケアの資質に影響するとの思いがあり、要望や意見には耳を傾け、気持ちに寄り添うよう努めている。夜勤明けのシフト、ユニット間での配置換え等要望通り改善されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年度初めに目標をたてて、面談時に達成状況を確認している。職員の補充ができず体調不良で休むと勤務が廻らず、職員には無理をさせてしまった。2月より職員補充にて少しゆとりができた。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修を年4回、事業所の研修年9回行ない、学びのレポートを提出している。外部の研修についてはあまり参加できなかった。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との研修、介護支援専門員の会に参加し、サービス内容などの情報収集を行ない、サービスの向上につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく1名の方が入居された。入居されてから声かけを多くし、なじみの関係を早く築くようにし、ご本人の話を聞くように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規契約時にご家族の不安や要望をお聞きし、早く慣れて安心して生活できるようにご家族にも協力していただくように説明している。様々な機会にご家族とお話し、信頼関係ができるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の状態と要望を確認し、ご家族に相談しながらサービスを行なっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることは個々に応じて行なっている。洗濯たみもタオルだけはたためる方、出来ない方は出来る方に頼んだりしながら、一緒に行なっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランに面会やご家族との外出などを目標にして協力をお願いしている。また、ささいなことも報告し、状態を知ってもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	食事がなかなか摂れないご利用者が退院後、帰省したいという希望にて、ご家族と相談し、2ヶ月後を目標に一時帰省が実現した。美容室やドライブなどなじみの場所にご家族に協力してもらいながら外出している。	それぞれの生活歴や家族からの話でなじみの関係を把握している。外出はケアプランに入れ、地域の方の面会や行きつけの美容室、かかりつけ医院の受診等なじみの関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファに座る位置は大体決まっているが、ご利用者によっては違う方がすわると怒ったりするため、職員が気をつけている。アクティビティには皆様が集まり行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご利用者はいらしやなかった。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや要望を担当職員中心にお聞きし把握に努めている。思いや要望をご家族と相談しながら叶えられるように支援している。把握が困難なご利用者はご家族、職員の思いを出し合い支援している。		管理者と職員は利用者一人ひとりの生活のリズムの中から、表情の変化や些細な言動に気付くように寄り添うケアに努めている。利用者からの表出を大切にしたい待つ介護を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昨年入居された方の生活歴を聞く中で、字をかくことや本、新聞を読むことが好きなこととお聞きした。徘徊が多かったが、居室より出てこられたときに新聞紙とコピーを準備して読んで頂いたり、書写をしてもらうことでその時間はおちついてきた。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできること、心身の状態を職員間で情報を共有している。月1回のミーティング時に状況の確認、日々の様子を日誌や連絡ノートで共有し、把握する努力をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや要望をお聞きし、ミーティング時にモニタリング、アセスメントを通して課題を出し合い、介護計画書につないでいる。その後、ご本人、ご家族と話し合い同意を得ている。		担当者を中心に日々の気づきを具体的に記録し、職員全員でモニタリングを行い、現状に即した計画書を作成している。カンファレンスは本人、家族も交えて話し合い、利用者主体の介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録し、ミーティング時にモニタリングと月のまとめを行ない、介護計画書の見直しに活かしている。いつもと違うときは日誌と連絡ノートに記入し、職員間で共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所(小規模多機能)と一緒に合同遠足を年3回行ない、気分転換になっている。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきサロンに数名参加し、場所も提供してきた。小学生の見送りに高齢者クラブの方と一緒に週2回ほど行っている。地域の美容院の訪問、なじみの美容室の外出は気分転換のなっている。高校生、読み聞かせ、地元のアコーディオン演奏のボランティア訪問など活用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が月1回生活の様子を見ながら往診に来られている。また、義歯などのトラブル時にご家族に相談し、協力歯科医院に受診し、報告している。	入居前からのかかりつけ医を主治医としている利用者もいる。受診は家族同行としているが、職員が同行する場合もある。協力医の毎月の往診もあり、受診に関する情報は、関係者全員で共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身状態、皮膚状態などで気づいたことは看護職員に伝え、相談している。病院受診(定期、緊急時)後はご家族、職員に報告し、信頼されている。夜間の緊急時は連絡し、指示をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご利用者の情報を提供している。入院中は看護職員中心にお見舞いに行き、状態報告を受けている。退院時にご家族と一緒に情報を聞いてスムーズに退院している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期についての説明を行なっている。1月に入院されたご利用者は食事摂取できず、活気がないため、ご家族より希望にて退院される。退院後、ご本人の好きな料理を提供したり、活動に参加している。病院に定期に受診し、栄養剤を補強し、ご家族には好きな物を持って来て貰っている。	重度化した場合の対応に係るホームの指針を記した文書を作成し、説明している。状態に応じてその都度家族と話し合いを持ち、本人、家族の意向を大切に、支援方法も踏まえた方針の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や救急蘇生法、AEDの使用法など定期的に研修し、実践につなげようとしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立てて、月1回の避難訓練を行なっている。避難時の水、避難食を保管している。	年間計画を立て、ホーム独自の訓練を毎月1回、利用者と共に実施している。避難訓練を主に行っているが、外部からの協力体制が未確立である。職員は車いす利用者の脱出方法にも不安を持っている。	運営推進会議や自治会を通して地域住民にも訓練の参加を呼び掛け、協力体制の構築を望みたい。また車いす利用者を始めとした具体的な避難誘導策を検討し訓練につなげていただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護については研修を行ない、介護を行なう中でプライバシーを守ることは難しいがご本人の気持ちに立っての言葉かけや信頼関係を築くことの大切さを学び、職員が改めて意識したと思う。	介護方針の一つである「あなたらしさに寄り添うケア」を心がけ、一人ひとりの尊厳を大切にした声かけや対応をしている。トイレ、浴室の入り口にはカーテンをつけプライバシーの確保に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉かけを職員が意識して行ない、ご利用者に選んでいただくようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状態を把握し、希望に添えるように支援している。特に落ち着いた様子の方は散歩したり好きなトランプなど行なっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって美容室へ髪染めに行かれていた方、ご家族がなじみの美容室へ外出している。毎食後に歯ブラシ後、クリームを顔につけている方もおられ、きれいにされている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて、たけのこ、つわ、ふきの皮むきを行ない、食事時に提供している。個々に応じて食器洗い、テーブル拭き、お盆拭き、盛りつけなど行なっている。食事前には献立を伝え、口腔体操もしっかり行えるようになった。	食器の片付けやお盆拭きなど手伝える利用者が多く、当番制にして全員が参加できるよう工夫している。時々弁当を作って公園に行ったり、外食することで、食べることの楽しみを支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食後チェックしている。水分量の少ない方はご家族と相談し、毎食ゼリーを提供している。3名の方は水分量をチェックしている。肉がだめな方は代替食を準備している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後声をかけている。十分できない利用者には、状態に応じて介助を行なっている。自立されている方で洗浄が不十分な方は職員があとで義歯を洗浄している。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン把握のため、チェック表へ記入し、必要なご利用者には時間をみて声かけを行なっている。夜間はポータブルトイレ、トイレ、夜間帯のみ紙オムツ使用しながら個々に応じて行なっている。	昼間は声かけや誘導を行い、トイレでの排せつを支援している。パターンに応じた個別支援により、紙パンツから布パンツに変わるなど自立につながる工夫を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方が水分を摂取しないため、毎食後ゼリーを提供し、乳酸菌飲料をご家族と相談して飲むようになり、下剤服用してスムーズに排便が見られている。また、ある方は昼食後5分トイレに座っていただくようお願いしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴を行なっている。その日の状態によって拒否されることもあり、様子を伺いながら声かけを工夫して入浴している。入浴時は利用者とゆっくり話す時間として大切にしている。	利用者は交代で1日おきの入浴としているが、それぞれの希望や体調に合わせた入浴支援も行っている。一人ひとりのペースに合わせ、安全・安心の入浴につなげている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールで過ごしていただいている。状態に応じて昼寝を行なっている。夜間居室ならびの3名の方がお互いの物音で0時すぎより落ち着かない時や、夜間不穏になり場所が分からない様子などのときなど見られる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員中心に薬の変更があった時に職員に直接伝え、連絡ノートに記載して情報を共有している。ミーティング時に再度薬の変更の内容、状態の報告など話合っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、お盆拭き、テーブル拭きなど個々の役割が決まってきた。食料品の運搬も1ユニットへ届くため、毎回運んでいたのが、役割となってきた。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れた日は歩行訓練を兼ねて周辺の散歩を行なっている。毎週日曜日はドライブの日となじみの場所や季節の花を見に行っている。墓参りや一時帰省などご家族の協力で行なっている。	天気の良い日には近隣の散歩やベランダに出て外気浴を行っている。定期的に出かけるドライブは利用者、職員共に気分転換となり楽しんでいる。外出支援は家族の協力も大きく、積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族がご本人に財布を持たせている。ご家族とバックを持って外出することがある。他のご利用者は預かっているが、お金の心配をされるご利用者もおられ、聞かれることがある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外の利用者には月3回ほど電話したり、電話がかかってきてお話しされている。また、創作活動の中で、はがきに色塗りをして、ご家族に出すことを伝えると一生懸命手紙を書かれる方もおられる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度、湿度が目で見えるように温度計と標準温度を明記している。そのことでエアコンを上手に使用出来ている。共有空間は季節に応じて花を飾っている。	ホールは天井が高く明かり取りの窓があり、採光や温湿度、換気等自然を生かす工夫がある。利用者の状態に合わせてソファやクッションが配置され、思い思いに寛いでいる。また、玄関からホールへと季節の花が生けられたり、七夕飾りなどで季節感を感じられるように工夫がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルの位置は大体決まっているようであるが、その時の状態にて変えたりしながら、ご利用者の様子を伺っている。時々、隣のユニットへ行かれ気分転換されている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にタンス、洋服、毛布など使っていたのを持参されている方、ご家族が選んで持って来られている方と様々である。また、ご家族の写真を飾っておられ、名前などお書きする中で会話が広がっている。	居室への持ち込みは制限せず、なじみの物や写真などが置かれている。絵画が趣味の方は自分の作品を額に入れ飾っており、その人らしさが滲む居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室が分からない方もいらっしゃる。ので、大きく書いて貼ることで、ご本人は安心している。			